



～季節の花便り～

## 砂丘の女王「スカシユリ」 について

謹啓 向夏の候 皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、砂丘の女王と呼ばれる「スカシユリ」が砂丘ガーデンを中心に咲き始めました。

スカシユリの名の由来は、花弁の下方が細くなって、各弁の間に隙間ができることからです。スカシユリは梅雨時に上を向いて開花し、雨はこの隙間から落ちるため、機能的な花形です。

スカシユリは、かつては砂浜に群生していましたが、現在では開発や盗掘などにより数が激減しています。公園では、残った株を大切に保護すると共に、公園内の圃場で育てた球根を砂丘ガーデンなどに植えています。

白い砂丘に鮮やかなオレンジ色の花を咲かせる花姿は、可憐でいて力強く、遠くから見ても非常に良く目立ちます。

つきましては、皆様には御多忙中のことと存じますが、取材並びに記事掲載の程よろしくお願い申し上げます。 謹言



撮影:平成19年7月3日撮影

### お問い合わせ先

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4  
ひたち公園管理センター企画課 穂積・田中・森下  
電話(029)265-9005 FAX(029)265-9339  
お客様問い合わせ番号(029)265-9001  
ホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp>

# 「スカシユリ」について

スカシユリ: *Lilium maculatum*  
(ユリ科 ユリ属)

海岸の砂地に生える多年草で、6～8月に、大きなオレンジ色の花を咲かせます。夏の砂丘を彩る植物です。現在、ところどころで咲き始めており、8月上旬までご覧いただくことができます。



平成 19 年 7 月 1 日撮影



平成 19 年 7 月 1 日撮影

スカシユリの名の由来は、花弁の下方が細くなって、各弁の間に隙間ができることからです。スカシユリは梅雨時に上を向いて開花するため、雨はこの隙間から落ちるので、機能的な花形でもあるのです。

スカシユリの鱗茎(地下茎の周りの葉が肉厚で球状になったもの。いわゆる“百合根”)は砂中に深く埋もれ、屈折した茎が地上まで立ち上がります。

屈折した地中の茎の途中に木子(小さな球根)を付け、また比較的地中の浅い場所に若い固体を付けますが、これが公園に生息するキジの格好の餌となってしまっています。

種子を発芽させて育てていくことも可能ですが、開花するまでに3年以上の歳月を要します。よって、増殖するには、木子を取って大きく育てていくのが最も効果的です。

また、スカシユリはウイルスに非常に弱いため、植栽する場合は土壌を使用せず砂を用いることがポイントです。

# 【スカシユリに関わるイベント】

## 親子自然教室

～大人の方でも気軽にご参加いただけます！～

事前申込

7月15日(日)

砂丘の女王「スカシユリ」を訪ねよう！

スカシユリやカワラナデシコなど、砂丘に咲く植物を観察！（未開園区域の特別公開です。）

受付：10：00（所要時間：2時間）

集合：風のゲート（海浜口）

場所：砂丘エリア

定員：先着30名

参加費：200円



平成18年7月16日撮影



平成18年7月4日撮影  
スカシユリ



平成18年7月16日撮影  
カワラナデシコ

## スカシユリ増殖作戦！

かつてこの辺り一帯を彩っていたスカシユリの咲き誇る風景を再び取り戻そう！と、園内で大切に育てているスカシユリの球根を参加者の皆さんとともに掘り取り、植え付けるイベントを行っています。

3年目となる今回は11月に予定しております。

詳細については追ってご案内いたします。



平成18年11月12日撮影

## 【海浜植物の群落復元をめざして】

ひたち海浜公園の砂丘には、かつて海浜の自然植生が良好な状態で保たれ、季節によってはハマヒルガオやハマエンドウ、スカシユリなど多様な海浜植物が咲き乱れる美しい植物景観が展開していました。

このように海浜植物が豊富に生育する美しい植物景観を見ることができた砂丘は、全国的にもほとんどありません。ところが近年、さまざまな人為的影響によって、海浜植物の生育に不可欠な砂の供給と移動が減少し、また、帰化植物や雑草が侵入して生育範囲を拡大させているため、海浜植物が脅かされています。

砂丘ガーデンでは、かつての自然植生を取り戻すため、海浜植物の群落復元をめざして、保護増殖活動に積極的に取り組んでいます。昨年は、イベントを通じてお客様、ボランティア、公園職員により、約一万個の木子を植え付けました。これらが順調に育ち、やがてかつての群落が復元され、ひたち海浜公園の夏の砂丘をオレンジ色に染めてほしいと期待しています。

平成19年7月3日撮影